

科目コード	25103		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	発育と発達		担当者名	浅野 幹也			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変容していく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、人間の身体の発育・発達における基本的理解を深め（30分程度）、毎時の課題となるレポート作成に取り組む（90分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付ける。また、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各単元ごとに資料を配布する。

<参考書>

（公財）日本スポーツ協会(2019)
公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト
（公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邊貴子(2014)
幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-
ミネルヴァ書房
（財）健康・体力づくり事業財団（2008）
健康運動指導士養成講習会テキスト
（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時間の講義内容のまとめ

体育学部健康科学科

科目コード	27104		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)		担当者名	坂本 賢広			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では頭部顔面骨折・胸骨骨折・肋骨骨折・脊椎骨折・手根骨骨折・中手骨骨折・指骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し、必要に応じて資料を配付する。確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogle classroomにて配信する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師として必要な知識を身に付け、最新医療の状況を把握し広い視野で物事を考えられる知識の習得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30%小テスト20%評価試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修（2019）

柔道整復学・理論編 改訂第6版

南江堂

全国柔道整復学校協会監修（2016）

柔道整復学・実技編 改訂第2版

南江堂

目崎 登監修

運動器疾患ワークブック

医歯薬出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	頭部・顔面骨折	頭蓋骨骨折 眼窩底破裂骨折
2	頭部・顔面骨折	上顎骨骨折 頬骨および頬骨弓骨折
3	頭部・顔面骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折及び下顎骨骨折
4	胸骨骨折	胸骨骨折（胸骨柄部・体部・剣状突起部）
5	肋骨骨折	肋骨骨折及び肋軟骨骨折
6	脊椎骨折	頸椎・胸椎・腰椎骨折
7	前腕遠位端部骨折	コーレス骨折
8	前腕遠位端部骨折	スミス骨折 パートン骨折 ショーフアー骨折
9	手根骨骨折	舟状骨骨折
10	手根骨骨折	その他の手根骨
11	中手骨骨折	中手骨骨折
12	中手骨骨折	その他中手骨骨折
13	指骨骨折	基節骨・中節骨骨折
14	指骨骨折	マレットフィンガー・末節骨骨折
15	まとめ	総合評価

科目コード	27200		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	病理学 I		担当者名	高畠 清文			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

1 病理学の役目を理解する。1 臓器・組織・細胞の退行性・進行性病変を習得する。1 充血、うっ血、梗塞などの循環障害が理解できる。1 炎症・免疫の本態と疾患が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修・関根一郎 著

「病理学概論 改訂第3版」

医歯薬出版株式会社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病理学とは	病理学とは何か、病理学における観察方法
2	疾病の一般	疾病・症候の意義と分類、疾病の経過
3	細胞障害（退行性病変）Ⅰ	萎縮と変性
4	細胞障害（退行性病変）Ⅱ	代謝障害と疾病
5	細胞障害（退行性病変）Ⅲ	壊死、死
6	循環障害 Ⅰ	血液の循環障害
7	循環障害 Ⅱ	血栓症・塞栓症
8	循環障害 Ⅲ	リンパ液の循環障害、高血圧症
9	進行性病変 Ⅰ	肥大、過形成、化生
10	進行性病変 Ⅱ	創傷治癒、移植
11	炎症 Ⅰ	炎症の一般
12	炎症 Ⅱ	炎症の分類
13	免疫、アレルギー Ⅰ	免疫の仕組み
14	免疫、アレルギー Ⅱ	免疫不全・自己免疫疾患
15	免疫、アレルギー Ⅲ	アレルギーの分類

科目コード	27202		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)		担当者名	飯出 一秀			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

脱臼という用語は「正常な関節面相互の解剖学的位置関係を失っている状態」を表している。基本的には関節構成組織 損傷で関節が脱臼状態にある場合には、骨と骨の位置的異常のみにとらわれるのではなく、損傷されている組織検索に 重きを置く事が重要である。

<授業の到達目標>

この授業では解剖学的位置関係を失っている「脱臼」状態について解説し、各組織の損傷 や評価、治療法を理解する事を目的とした。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、必要に応じて資料を配付する。それらを基に解説を行う。また、各種整復法などの実技が ともなう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけなところ）を把握する毎回予習（30分程度）。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強 を兼ねた復習である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付け、科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けることを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト10%、課題プロジェクト20%、定期試験70を総合的に判断する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2011. 12. 20）

「柔道整復学・理論編」

南江堂

<参考書>

目崎 登（2012. 4. 10）

「運動器疾患ワークブック」

医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	脱臼総論	定義と概説
2	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
3	頸椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	胸椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	肩鎖関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
6	肩関節脱臼－前方・後方－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼－下方・上方－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肘関節脱臼－両骨－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼－単独・肘内障－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	手関節脱臼－関節－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
11	手関節脱臼－手根骨－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼－CM関節－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼－MP－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	手指脱臼－DIP・PIP－	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
15	まとめ	総説

科目コード	27302		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅰ		担当者名	古山 喜一			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である上肢の骨格系、筋系、神経系、脈管系、免疫系、呼吸器系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅰでは、筋骨格系、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器を中心に、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるようになるために、解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について学習する。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用いた討論形式、演習問題で進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に復習が重要である。講義で書き留めたノートを帰宅後まとめる作業が重要である。プリントに記された実習内容に関する項目について、解剖学や生理学及び運動学で習った事を復習する。授業内容（小テスト・講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はDP4に関連づけられている。「柔道整復及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な知識と技能を理解しており、日々、進歩するあらゆる分野の知識を習得するための力」を育成する為に柔道整復術の基礎をなすために修得が特に必要な筋骨格系、神経、血管系について系統的に理解を深め基礎を定着させる機会を与える。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】①定期試験50%（定期試験で60%以上の評価者）②小テスト・レポート50%（事前課題等含む）【Web授業】①小テスト・課題提出90% ②意見交換10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修

解剖学

医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修

生理学

南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	症例1	鎖骨骨折で腕神経叢損傷が発生した！
2	症例2	最近、人差し指の先端がしびれる！
3	症例3	朝起きたら手が動かない！
4	症例4	手が握れない！
5	症例5	検脈はどこでできる！
6	症例6	腕全体がしびれる！
7	振り返り 1	末梢神経・動静脈のまとめ1
8	振り返り 2	末梢神経・動静脈のまとめ2
9	症例7	立ちくらみ、息切れ、めまい、ふらつき、頭痛がする！
10	症例8	おしっこが出ない！
11	症例9	つらい！花粉症！
12	症例10	お腹が空いた！
13	症例11	息ができない！
14	振り返り 3	解剖生理学のまとめ 1
15	振り返り 4	解剖生理学のまとめ 2

科目コード	27203		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)		担当者名	坂本 賢広			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

<授業の概要>

捻挫における発生機序、症状、治癒形態といった概要について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学習する。各論においては顎関節、頸部（胸部も含む）、腰部で生じる捻挫について学習する。

<授業の到達目標>

捻挫は臨床現場で関わる人が多い運動器疾患の一つである。捻挫を生じる組織の種類、症状、治癒機序等について機能解剖学、生理学、運動学的視点より理解し、論理的思考を習熟させることを目標とする。また、競技者の外傷予防の概論について理解し、アスレティックトレーナー実習等における理論的背景について理解することを目標とする。

<授業の方法>

冒頭に前回の授業範囲から小テストを実施する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogle classroomにて配信する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義受講前には必ず解剖学、生理学（骨、筋肉、神経）に関する予習を実施すること。前回の授業範囲から確認テストを実施するので、復習をしておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

柔道整復師国家試験において、近年、軟部組織損傷の出題割合が増加傾向にある。本授業では主に頭部および脊柱の軟部組織損傷を取り扱う。また「競技者の外傷予防」について指定教科書の内容も取り扱う。従って2年次配当の本授業の内容を理解することは柔道整復師国家試験に合格するため必須の内容といえる。本科目は、健康科学科ディプロマポリシー1、2、7の「医療人として、広範でグローバルな視点と知識を身に付けている」「柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている」「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」に該当し、総合的な学習経験と創造的思考力について修得する機会を与える。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30%小テスト20%評価試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2019）
 柔道整復学・理論編 改訂第6版
 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2016）
 柔道整復学・実技編 改訂第2版
 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2020）
 競技者の外傷予防
 医歯薬出版株式会社
 <参考書>
 全国柔道整復学校協会（2020）
 整形外科学 改訂第4版
 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	運動生理学の概要（1）	運動が生体に与える影響運動とエネルギー代謝
2	運動生理学の概要（2）	運動と骨・筋肉運動と呼吸・循環
3	運動生理学の概要（3）	運動とホルモン競技者の運動生理学的特徴
4	競技者の外傷予防（概論）（1）	競技者の外傷予防の概要外傷の発生要因
5	競技者の外傷予防（概論）（2）	外傷の予防対策
6	頸部捻挫（1）	頸部周囲組織（神経）の確認
7	頸部捻挫（2）	寝違え、むちうち損傷
8	頸椎部の神経損傷（1）	外傷性腕神経叢麻痺、副神経麻痺
9	頸椎部の神経損傷（2）	長胸神経、分娩麻痺、頸髄損傷（総論）
10	頸部の疾患（1）	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア
11	頸部の疾患（2）	胸郭出口症候群
12	腰部捻挫（1）	腰部周囲組織の確認、腰痛症
13	腰部捻挫（2）	腰椎椎間板ヘルニア、脊椎分離すべり症
14	腰部捻挫（3）	変形性脊椎症（腰部脊柱管狭窄症）、梨状筋症候群
15	まとめ	総合評価

体育学部健康科学科

科目コード	61005		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動障害と予防および救急処置		担当者名	河合 洋二郎			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

<授業の到達目標>

本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に随時通知する予定。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）|及びDP5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。）に対応している。|

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験80% 授業態度・提出物20%

<教科書>

「健康運動指導士養成講習会テキスト」
財団法人健康・体力づくり財団

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）	実習：救急蘇生法、AED、CRP
15	特殊環境下における運動障害と予防	高山病、潜水病、寒冷地での低体温について

科目コード	36505		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価Ⅰ		担当者名	江波戸 智希			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に 実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーに必要とされる評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている）、ディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている）と関連付けられている科目である。スポーツ現場において競技者の体力を科学的に評価するために必要な専門的知識について学習する。また、アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ～Ⅴで行う検査・測定、評価の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加），課題・発表（適宜出される課題，最終課題，発表）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ATに必要な評価（1）	ATによる評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	ATに必要な評価（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	ATに必要な検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	ATに必要な検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	ATに必要な検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	ATに必要な検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	ATに必要な検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	ATに必要な検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義 およびその検査測定方法
10	ATに必要な検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	ATに必要な検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	ATに必要な検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	ATに必要な検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定の検査項目とその目的と概要
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	ATに必要な検査・測定方法に関する総合討議

科目コード	36506		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価Ⅱ		担当者名	江波戸 智希			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義、6つのスポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的および体力的要因を説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている）、ディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている）と関連付けられている科目である。スポーツ外傷・障害発生の観点から、競技者の体力および動作を科学的に評価するために必要な専門的知識について学習する。また、アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ～Ⅴで行う検査・測定、評価の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ動作の観察と分析(1)	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	スポーツ動作の観察と分析(2)	歩行動作のバイオメカニクス
3	スポーツ動作の観察と分析(3)	歩行動作に影響する要因
4	スポーツ動作の観察と分析(4)	走動作のバイオメカニクス
5	スポーツ動作の観察と分析(5)	走動作に影響を与える機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
6	スポーツ動作の観察と分析(6)	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス
7	スポーツ動作の観察と分析(7)	ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム
8	スポーツ動作の観察と分析(8)	跳動作のバイオメカニクス
9	スポーツ動作の観察と分析(9)	跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
10	スポーツ動作の観察と分析(10)	投動作のバイオメカニクス
11	スポーツ動作の観察と分析(11)	投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム
12	スポーツ動作の観察と分析(12)	あたり動作のバイオメカニクス
13	スポーツ動作の観察と分析(13)	あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなあたり動作の特徴とメカニズム
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	スポーツ動作の観察・分析に関する総合討議

科目コード	3F104		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)		担当者名	畑島 紀昭			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折、前腕骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）とディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。）と関連付けられています。柔道整復師として必要な知識を身に付け、最新医療の状況を把握し広い視野で物事を考えられる知識の習得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、評価試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会

柔道整復学・理論編

南江堂

全国柔道整復学校協会

柔道整復学・実技編

南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	鎖骨骨折（1）	鎖骨骨折（中央）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
2	鎖骨骨折（2）	鎖骨骨折（近位および遠位）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
3	肩甲骨骨折（1）	肩甲骨骨折（肩甲骨体部骨折、肩甲骨辺縁部骨折、肩甲骨関節窩骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
4	肩甲骨骨折（2）	肩甲骨骨折（肩甲骨頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
5	上腕骨近位端部骨折（1）	結節上骨折（上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
6	上腕骨近位端部骨折（2）	結節下骨折（外科頸骨折、大結節骨折、小結節骨折、結節部貫通骨折）、骨端線離開における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
7	上腕骨骨幹部骨折（1）	上腕骨骨幹部骨折における概要、発生機序、転位について
8	上腕骨骨幹部骨折（2）	上腕骨骨幹部骨折における症状、合併症、整復法、固定法について
9	上腕骨遠位端部骨折（1）	上腕骨顆上骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
10	上腕骨遠位端部骨折（2）	上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
11	前腕骨近位端部骨折（1）	橈骨近位端部骨折（橈骨頭骨折、橈骨頸部骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
12	前腕骨近位端部骨折（2）	尺骨近位端部骨折（肘頭骨折、尺骨鉤上突起骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
13	前腕骨骨幹部骨折（1）	橈骨骨幹部骨折、尺骨骨幹部骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
14	前腕骨骨幹部骨折（2）	前腕骨脱臼骨折（モンテジア脱臼骨折、ガレアッツィ脱臼骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
15	まとめ	授業の総合評価を行う。

科目コード	3F204		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)		担当者名	簗戸 崇史			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

下肢はヒトとしての特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、骨盤、大腿部、膝部、下腿部、足部の下肢における骨折の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、骨折の発生機序、症状を説明できる。2. 骨折の状態から治療指針について判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は健康科学科のディプロマポリシー3（幅広く深い教養の習得）および5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力の習得）と関連付けている。疾患に対し基礎情報に加え様々な症例報告や画像所見を通じより理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%, 学習意欲10%

<教科書>

柔道整復学校協会
柔道整復学・理論編
南江堂

<参考書>

小林直行 監修
柔道整復師国家試験重要問題 柔道整復学|下肢・総論
医歯薬出版株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨盤骨単独骨折（1）	腸骨翼単独骨折、恥骨単独骨折、坐骨単独骨折、仙骨単独骨折、尾骨単独骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
2	骨盤骨単独骨折（2）	腸骨稜裂離骨折、上前腸骨棘裂離骨折、下前腸骨棘裂離骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
3	骨盤骨輪骨折	骨盤骨輪骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
4	大腿骨近位端骨折（1）	大腿骨骨頭骨折、大腿骨頸部骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
5	大腿骨近位端骨折（2）	大腿骨転子部骨折、大腿骨大転子単独骨折、大腿骨小転子単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
6	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折（上1/3、中1/3、下1/3）における特徴、発生機転、症状、治療法について
7	大腿骨遠位端部骨折（1）	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離解における概要、発生機転、症状、治療法について
8	大腿骨遠位端部骨折（2）	大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部剥離骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
9	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折、分裂膝蓋骨における特徴、発生機転、症状、治療法について
10	下腿骨近位端骨折（1）	脛骨顆部骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
11	下腿骨近位端骨折（2）	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
12	下腿骨幹部骨折	脛骨単独骨折、脛腓両骨骨折、腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿疲労骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
13	下腿骨遠位端骨折	下腿骨果部骨折、足関節脱臼骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
14	足根骨骨折	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
15	足趾骨骨折	中足骨骨折、他の足趾骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について

科目コード	3F300		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	病理学Ⅱ		担当者名	高 島 清 文			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	講義

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

1 腫瘍の本態、発生原因、分類。治療の概略を習得する。1 奇形を含む先天性異常の発生原因と種類が理解できる。1 内因・外因を含め病因を知り、その対処方法が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修、関根一郎 著

「病理学概論 改訂第3版」

医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	腫 瘍 I	腫瘍とは
2	腫 瘍 II	腫瘍細胞とは
3	腫 瘍 III	腫瘍の生体への影響、癌の診断と治療
4	腫 瘍 IV	腫瘍の分類
5	腫 瘍 V	主要な癌
6	先天性異常 I	先天性異常総論、遺伝形式
7	先天性異常 II	奇形の原因、奇形の種類
8	病 因 I	内因 1
9	病 因 II	内因 2
10	病 因 III	物理的原因
11	病 因 IV	化学的原因
12	病 因 V	生物学的原因
13	運動器の病理 I	感染性の疾患
14	運動器の病理 II	非感染性疾患
15	運動器の病理 III	全身性の骨・軟部疾患

科目コード	3F301		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	整形外科科学 I		担当者名	石原 和泰			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科科学総論にあたる部分である。すなわち、整形外科の意義と歴史、運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科的治療法、骨・関節損傷総論、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP6（感性豊かな人間性と高い医業倫理を備え、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医科学の学際的領域で他者と協調できるスキルを身に付けている。）及びDP7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 90%、出席点 10% | 欠席届の場合：当該授業に関連したレポートを提出すること（内容は任意）レポートの提出により出席点を与える。|

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修

「整形外科科学」

南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修

「標準整形外科学」第13版

医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	整形外科とは	整形外科の意義と内容、整形外科の歴史
2	運動器の基礎知識 (1)	骨の基礎知識、関節の基礎知識、筋・靱帯・腱の基礎知識
3	運動器の基礎知識 (2)	運動器の科学
4	整形外科診察法 (1)	姿勢、体幹と四肢のバランス、上・下肢長、周径、跛行
5	整形外科診察法 (2)	関節拘縮と強直、徒手筋力テスト、知覚の診断、反射
6	整形外科検査法	画像検査、関節鏡検査、超音波検査、骨密度測定、電気生理学検査
7	整形外科的治療法	保存療法、観血的治療
8	骨・関節損傷総論	骨折総論、関節の損傷
9	スポーツ整形外科総論	位置付け、代表的スポーツ種目と特徴的な怪我、学校での重症外傷
10	リハビリテーション総論	変形（拘縮）、術後、上肢、スポーツとリハビリテーション
11	疾患別各論 (1)	感染性疾患、骨および軟部腫瘍、非感染性軟部・骨関節疾患
12	疾患別各論 (2)	全身性の骨・軟部疾患、骨端症
13	疾患別各論 (3)	四肢循環障害
14	疾患別各論 (4)	神経・筋疾患
15	まとめ	総括

科目コード	3F306		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅳ(捻挫)		担当者名	古山 喜一			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復の伝統的理解である亜急性捻挫は中年期以降に多く発生する。よって、この授業では主に中年期以降の老化にともなう中年及び高齢者の身体的特徴や日常生活、ならびに、中高齢者を取り巻く社会情勢の特徴と問題点を学ぶことにより、亜急性捻挫の発生機序や特徴の理解および治療法の修得に役立てる。また、高齢者に接する際の心構えや医療従事者としての倫理観について学び高い人格形成に努める。

<授業の到達目標>

1. 高齢社会の現状とその対策が説明できる2. 老化による生体の構造や機能の変化が説明できる3. 中高年の代表的運動器疾患と特徴、予防法が説明できる4. 高齢者を取り巻く社会情勢や環境について説明ができる

<授業の方法>

配布資料による講義、ならびにグループ学習形式で進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

将来臨床現場では多くの中年及び高齢者に接することになる。よって、中高齢者の身体的特徴や高齢者を取り巻く環境を理解することは重要である。これらについて事前・事後に予習復習しておくことが必要である。（予習、復習共に1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はDP5に関連づけられている。科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付け、中高齢者では必ずしも機械的刺激によるものばかりでなく、心因性や生活の背景が原因していることがあることを学ぶ。また、臨床現場で必要とされる中高齢者に対する健康関連の項目についてエビデンスを根拠に学習する。それらを踏まえ治療計画の組み立て型について理解を深め、臨床現場に備える機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】①定期試験50%（定期試験で60%以上の評価者）②s小テスト・レポート50%（事前課題等含む）【Web授業】①小テスト・課題提出90% ②意見交換10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修

柔道整復師と機能訓練指導

南江堂

全国柔道整復学校協会 監修

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理

医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業進行上の注意事項説明
2	中年及び高齢者を取り巻く現状を知る	中高年の社会の人口学的概況と保健・医療・福祉制度の現状と課題を理解する
3	認知症の理解	高齢者に発生する認知症の病態、症状、治療法を理解する
4	柔道整復師と介護保険 発達と老化の理解	介護保険と柔道整復師の関わりを理解、老化の理解
5	介護保険制度	介護保険制度の理解
6	高齢者介護(1)	介護過程、介護予防等の理解
7	高齢者介護(2)	介護予防・機能訓練で提供する運動と要点等の理解
8	我が国の社会保障	社会保障制度について理解する
9	柔道整復師業務における療養費(1)	療養費の精度の概要
10	柔道整復師業務における療養費(2)	療養費算定の実際
11	職業倫理(1)	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応
12	職業倫理(2)	グループディスカッション事例
13	関係法規(1)	柔道整復師法、医療法等の関係法規を理解する
14	関係法規(2)	柔道整復師法、医療法等の関係法規を理解する
15	総合討議	これまでの授業を復習し再度確実な知識として修得する

科目コード	3F307		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)		担当者名	小玉 京士朗			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

<授業の到達目標>

1. 上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。
2. 他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））、
復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）と関連付けております。疾患に対し基礎情報に加え新知見など様々な症例報告や画像所見を通じより理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月10日)

「柔道整復学・理論編」

南江堂

全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月10日)

「柔道整復学・実技編」

南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(1)	腱板断裂
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ペネット損傷
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SAP損傷、インピンジメント症候群
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、oos shoulder
6	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靭帯損傷、野球肘
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	テニス肘、前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
10	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、指側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	手根管症候群、ギヨン管症候群、キーンベック病、マーデルング、デュピイトラン拘縮
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	ドケルバン病、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15	まとめ	総合復習、総合討議

科目コード	3F302		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	整形外科科学Ⅱ		担当者名	石原 和泰			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科科学各論にあたる部分である。すなわち、整形外科身体部位別各論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP6（感性豊かな人間性と高い医業倫理を備え、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医科学の学際的領域で他者と協調できるスキルを身に付けている。）及びDP8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 90%、出席点 10% 欠席届の場合：当該授業に関連したレポートを提出すること（内容は任意）レポートの提出により出席点を与える。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修

「整形外科科学」

南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修

「標準整形外科科学」第13版

医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体部位別各論 (1)	頸部 (1)
2	身体部位別各論 (2)	頸部 (2)
3	身体部位別各論 (3)	胸部
4	身体部位別各論 (4)	腰部 (1)
5	身体部位別各論 (5)	腰部 (2)
6	身体部位別各論 (6)	肩・肩甲帯
7	身体部位別各論 (7)	上腕・肘関節
8	身体部位別各論 (8)	前腕
9	身体部位別各論 (9)	手関節
10	身体部位別各論 (10)	手・手指
11	身体部位別各論 (11)	骨盤・股関節
12	身体部位別各論 (12)	大腿・膝関節
13	身体部位別各論 (13)	下腿・足関節
14	身体部位別各論 (14)	足・足趾
15	まとめ	総括

科目コード	3F308		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)		担当者名	小玉 京士朗			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年益々高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本講義では下肢の軟部組織損傷を大きく股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足関節部、足部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学習する。

<授業の到達目標>

各損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について説明ができる。

<授業の方法>

1. 教科書を中心とした講義

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：受講する講義に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、1時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー5「科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける」と関連付けている。下肢軟部組織疾患に対し基礎情報に加え新知見など様々な症例報告や画像所見を通じより理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90％，学習意欲10％

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・理論編

南江堂

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・実技編

南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	股関節の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
2	股関節の軟部組織損傷	成長期の障害及び加齢による障害
3	股関節の軟部組織損傷	その他の障害
4	大腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
5	膝関節部の軟部組織障害	発育期の障害
6	膝関節部の軟部組織障害	靱帯損傷
7	膝関節部の軟部組織障害	半月板損傷
8	膝関節部の軟部組織障害	関節周囲の損傷
9	膝関節部の軟部組織障害	変形性膝関節症
10	膝関節部の軟部組織障害	その他の膝の損傷及び障害
11	下腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及び障害
12	足部の軟部組織損傷	靱帯損傷
13	足部の軟部組織損傷	足部の有痛性疾患
14	足部の軟部組織損傷	変形及び末梢神経障害
15	まとめ	総復習